

平成 24 年 6 月 26 日

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原 1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 025-794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

6 月 7 日報告の続きです。よろしく願い致します。

今回は 5 月期出張/6 月期出張の 2 回のラウンド視察を実行した後の報告となります。

合わせて弊社展示会の開花状況も合わせて、現在感じている事、考えている事を報告いたします。

ラウンド産チューリップ球根

12 年産

作況は生産地毎に相当、差が大きくなる様です。

芽形成についてはまだ分かりませんが、早くはならないと思います。全体的に欠品傾向となる様です。

輸入計画を立て始めていますので、まだ注文されていない部分がある様でしたら、早めにご手配ください。一部品種で明らかなる価格上昇傾向が見えてきています。

入荷数（取扱い数）が減少傾向となれば、スペースの確保の都合でラウンドに在庫が有っても購入できないというケースが考えられます。

国産百合球根

11 年産 まずまず

12 年産 定植が遅れている。生育も遅れているが、ウイルスを含む品質はまずまずの様です。

南半球産百合球根

11 年産 大変でした。いろいろご迷惑をお掛けしました…。

12 年産

欠品報告入り始めました。若干欠品ありますが、例年に比べて欠品は少ない様です。(R トリニティ欠品 0% …この事の持つ意味は?)

日本市場は球根を十二分に確保しているはずですが。一方、世界市場は新興国まで含めて確保が遅れている様です。

作況によるところの欠品はあっても、他国からの需要が強いことによる欠品はまず無い、と考えて良い様です。N.Z 産は、普通作からやや肥大不足で、丁度良い。C.H 産は肥大気味で、作は大変良い。

大球過剰傾向となると思われます。C.H 産については、各国への球根販売状況はよく分かりませんが、あまり順調とは言えないと思います。(世界中景気が悪い!)

日本は「N.Z 産を守る」というスタンスの仕入を行ったと思います。Plamv 問題を踏まえ、13 年以降の計画は若干考え方の修正が必要となってくるはずですが。(そうでなければ N.Z 産も余っていたはず。価格も支えたのです!)

12年産はそれを見極める重要な年となると思います。国際情勢を踏まえ、13年産取引は大幅に遅らせるべきと考えます。

各球根産地の使い方を十二分に研究してから（結果が出てから）スタートしましょう。球根は万能ではありませんから。

オランダ産百合球根

11年産

インディアンダイヤメント、シベリアHLC/HLCTLの一部ロットで、LMOV 事故確認。現在調査中。

その他では、一部シラなどでブラックローズ、青かび、リンペン腐敗、芽伸び等確認しているが、大きな事故とはなっていない。Plamv 問題は比較的発症していない？

全体的には作は悪くない様に見える。休眠打破の遅れからくるボリューム不足、輸付き不足が早い作型で確認されているが、晩春・初夏作型ではほぼ解消されていると思う。3月以降出庫作型は逆に調子が良いように見えます。

日本の入荷状況は、5月末日までの植検対象球根ベースで、前年比約5.5~6.0%減少している様です。（速報値なので変更おきる場合があります）6~11月の入荷球数予定は不明です。11年産/12年産南半球産増加傾向を踏まえ、増え過ぎなければ良いのだからと思います…。

秋以降の発症が予測されるウイルス問題は、本当に恐怖です。

12年産

今何を考えているのか…。今何を悩んでいるのか…。書きたいと思います。

A. H/L. A 系 球根は色別に若干の差がありますが、やや過剰気味に生産されていると思います。日本向けに重要度が高いと思われるRトリニティ、インディアンダイヤメント、セバコゲジュールは、減少していると聞いています。

インディアンダイヤメントに至っては、優秀ロット確保が非常に難しい。クーリア、ブライタダイヤメント当たりも購入確保の見極めが難しかったです。「この品種は、生産はあるがもうやめたほうが良い」というアドバイスを受けた品種が相当数出ています。

①今年では先行き価格が下がる品種があるのだらうなあと感じています。

②優良ロットの確保は絶対しなければならないのだらうなあと思います。

③そしてさらに覚悟を決めなければならなかったのは、「仮に後半価格が下がったとしても」13年以降の球根生産を、日本市場向け生産を、安定的に行ってもらう為には、高すぎず暴落価格でもない価格で納得して買う事が必要でした。これが難しかったです。

Rトリニティについて「S-ES」を確約してくれる農家が生まれました。1軒の農家のみです。高く買いました。計60万球。これが全てです。輸付きが明らかに良いはずですが。

標準球でも、過去3年間、埼玉で「このロットは良い」と評価された農家の球根で抑えてもらいました。

セバは価格が下がるかもしれませんが。下がり過ぎれば、次年度の栽培面積は大幅に減少するでしょう。したがってこのくらいなら我慢できると思う価格で「S-ES」を作ってくれる農家を守るための仕入を行いました。そうしなければ冬場に安定供給できる品種球根が無くなりますからね…。

オランダの生産が不安定になるのと同じです。無くなれば代替が無いのです。

各々のコンディション別販売は、1~2年のロット調査で作られたものでは無いんですよ…。(何が分かるんですか？それを、1年間に複数作型で、複数の地域で、複数年続けて初めてできる。年によってはダメなこともある…。)

後半安売りすることになるであろう農家は来年必ず栽培面積を減らすはずだから…。

④オランダでは、透かし百合のトザンよりも色の薄いオズを「オズ」とは言ってくれません
現在主要なL.A球根消費国はそれを「ピーチ色」と表現するそうです。

そんなわけで、多くの育種会社の開発は、傾向として日本市場向けとしてはやや色の濃いものが主力となってくる様です。

最初に品種を購入するのは、輸出業社ではなくて、オランダの球根農家です。彼らは3サイズ 4サイズ
世界市場に売れる品種を選択します。

⑤本年の当社試験栽培 A.H/L.A はそういった意味で過去には考えられないくらい重要度の高い試験
だったのではないかと思います。在来系品種の球根品質が不安定化してきている状勢の中で、
すでに球根農家がライセンスを取得して生産してくれる事が決定している品種の中から、日本でも使える
品種を探す…。

今年は、各色、各作型向きで有望だろう…そして球根も供給できるものがだいぶ見つけること
ができました。収穫の多い年となった様です。(新潟/埼玉/栃木の主産県の生産者の皆様に無理や
り頼んで実際に見て頂きました。大変ありがとうございました。)

まだ間に合いますので、ぜひ見に来てください。

ご注文の際にはぜひ「どの作型用」として問い合わせください。新品种ご紹介できると思います。

0.H/0.T、L.O系その他 今回の6月出張時、大変ショックだったことを書きます。

①ゲッタ社が約1.5haの2倍体鉄砲百合の育種を行っていた事。これは今までの常識を完全に
超えています。(鉄砲百合育種だけが目的ではなく、L.A/L.O系の親を作る為の交配を大きく進め
ていた事。)

②ゲッタは種間交配でも交雑可能な品種(親)が増加していて、48通りにも及び種間交配を始
めていたという事。

③輸入業社なら全ての方が承知されているように、今やA.Hの交配は、A.Hそのものを商品化
するための育種ではなくて、優良な種間交配種の親を作る為に行われていますが、どうやら鉄砲
百合だけではなくて、0.H系すら優良親系統を作る為の育種に変わりつつあるように見えたとい
う事です。

V.Z社のマンチェスター(赤A.H)

MAK社のオイトワラ(白Longi)

Marklily社のオグガ(白0.H)

などがその中から偶発的に商品化されて出てきているのかなあと感じました。

今、世の中に発表されてきている品種は、育種会社毎の育種増殖開発速度毎に様々ですし、各育
種会社の持つそれぞれの育種技術により、若干軸足の置き所が違います。(したがって育種会社毎
に意見は分かれています。)

大体2002年~2007年に交配されたものが発表になってきている様です。したがって、2008~2010
くらいに交配された物が順次発表になってくるとは思われます…。

前記した様に、最初に品種を買うのはオランダ、ニュージーランド、そしてフランス等の球根農家が品種栽培
権を買わない限り、5年後~10年後の日本市場への照会はされてこないという事なのです。

いくつかの品種が一部育種会社によって宣伝試験用に作られる事は依然行われるはずですが、果
たして今後日本向けの0.H種が各国の球根農家に支持されて増産されてくるのか?

この数年間の傾向を見ていると、色、咲き方、ボリューム感などで、日本向けの品種のライセンス(球根
生産販売権)が売れていないなあと感じています。

Plamv、LMOV 問題を踏まえ、品種更新が進みやすい環境が出来つつある中で、ワヅガの球根生産者がどんな品種を支持していくことになるのか？注意してみなければと感じました。

P.0 社/V.Z 社の担当から、今までの見方+ α の見方をする様はつきりと指導されました。
(他国への販売可否も同時に考える。)

12 年産 O.H/O.T 系の状況 今感じている事、考えていることを書きます。

12 年産ワヅガ産は、その国際消費情勢予測から、過剰感が出てくると思います。(全花色)
現在までのワヅガ渡しの球根価格 (FOB 価) は、決して高くありません。

Plamv/LMOV 問題は、心配していなかった L.A 系にすら確認できるくらいですから、O.H/O.T 系についてはさらに心配しています。

輸出業者毎に問題に対してのスタンスが違います。情報は、2重3重確認しなければならない。
(日本の球根業社の皆さんは、あえて複数の、いつも仕入ようと思っている会社+ α から見積もりを取ってみてください。信用取引をしてきた私たちにとって、各社の考え方の見えていなかった部分が、見えてくるはずですから…)

各輸出会社が、信用取引ではなく、現在栽培されている 12 年産百合球根の圃場確認を行って確保しようとしています。作業が進んでいる会社と遅れている会社でかなり認識に差がある様です。

見極めがついたところから確保していくしかないと思われまます。

大変恐縮なお話ですが、11 年産で事故率が高い、又はリスクに対しての認識の高い会社の方が、12 年産の品質確保に向けての努力がしっかりしているように見えます。

良いロット、良い農家の球根はこのまま売り切れてほしい。可哀そうだが悪いものは価格下降、又は廃棄となってほしい。日本には入ってきてほしくないというのが願いです。

ここで取引農家軒数の少ない輸出業社、多い業社、信用取引率の高かった業社、少なかった業社、畑調査ができる会社とそうでない会社の差が大きく出ると思います。

輸出業者毎の問題に対しての考え方の差は簡単には埋まらないと思います。よほど気を付けていないと見極めが難しくなるなあと思っています。

日本向け品種、日本向けの球根を作ってくれる農家を守っていく仕入を行いたい。一方、心を鬼にして Plamv からできるだけ距離を置く。

*今後の有望種を探そうと思った時、パシフィック日本向きではなくて、アジア市場にも売れる品種を探さなければならない。これは日本の輸入業者の力だけでは無理です。加えて、品質基準をどこに置くか…。

どのような連携を輸出業社育種会社ととっていくのか…。その重要性の確認が取れた出張でした。

追記

O.T 系は、「日本の切花輸送箱」に最低 20 本以上はいるボリューム感に留めてほしいと要望しました。

ドイツの育種業者のパンゾーは一斉開花。日本の育種業社の育成したパンゾーは、順次開花性を持つ。

ブークが主要な消費の国々では、百合においても一斉開花が重要。

一本一本の花持ちを重要視する日本は、順次開花するタイプの花が多くの場合求められる。(百合だけではなく) 数ある O.T (L.A も O.H も) の中からそんな品種が見つけれればと考えています。(唐突ですが、世界と日本の差をこれ程感じた話はなかったので…。)

よろしくお願い致します
詳細はお問い合わせください。

森山隆